
愛媛県臨床細胞学会会報

第 30 号 2023 No30 version 2.0

目 次

| | |
|---|----|
| 巻頭言 | 2 |
| 第 31 回 愛媛県臨床細胞学会学術集会 プログラム / 会場 / 抄録集 | 4 |
| 令和 3 年度・4 年度 愛媛県臨床細胞学会奨励賞 | 14 |
| 2021・2022 年度細胞診検査士合格者 | 16 |
| 令和 4 年度実施事業および支部活動 | 17 |
| 令和 4 年度愛媛県臨床細胞学会役員会 | 18 |
| 令和 4 年度愛媛県臨床細胞学会総会 | 20 |
| 令和四年度会計報告 | 22 |
| 愛媛県臨床細胞学会 会則 | 23 |
| 愛媛県臨床細胞学会 役員会名簿 | 25 |
| 愛媛県臨床細胞学会 会員名簿 | 26 |
| 編集後記 | 28 |

愛媛県臨床細胞学会
発行日 令和 5 年 4 月 2 日

巻 頭 言

愛媛県臨床細胞学会会長 寺本典弘

愛媛県臨床細胞学会会報・第30号を発刊しました。お気づきのように、今号には、前年度の学術集会の記事や総会議事録がありません。前号から完全Web発刊になり、それにより当年度の抄録と発表内容・総会議事録までが、その年の号に掲載されることになりました。学術集会前から徐々にVersionを重ね、学術集会前にversion 1.0、総会終了後にversion 1.4、そしてこの最終版がversion 2.0です。Web化されたので前号からはリンクを推すと動画が開いたり、資料がダウンロードできたりします。目次もリンク化されています。是非デジタルにご利用ください。

コロナ第8派は山を越えました。報道等で見ただけたかもしれませんが、私のやっている別の仕事で『健康のための行動は自粛してはいけません』というメッセージを出しました。日本のコロナ対策を決められる立場ではないので、自らの立場に従い、飲食・大声を伴わないイベントでのクラスターはごく少ないという科学的知見に基づき、現地開催を敢行した。

今回から、学術集会を夏冬の2回行う予定で計画を立てています。今回はその初回として1月28日土曜日の昼過ぎから学術集会を3時間弱行いました。

大阪大学医学部病理学講座 病態病理学 教授 森井英一先生に『多様性一なぜ腫瘍はヒツコイのか』と題し、組織像細胞像の多彩さの秘密に関わる講演をしていただきました。シンポジウムは市立宇和島病院病理診断科 菅恭弘先生、山内直樹先生がオーガナイザーを務め「失敗例(苦慮した症例)から学ぶ細胞診」を主宰しました。細胞学会では初のオーガナイザーでしたが、フロアから活発な質疑もあり、充実した『明日の朝から役に立つシンポジウム』になったとおもいます。

夏には、スライドセミナーと一般講演を軸とした夏の学術集会を7月22日に現地開催します。その時にはよろしくご参集ください。

先の話ですが2025年に中四連合会が愛媛県で開かれます。その際には一般演

題はなしで、教育講演 16 題程度だけのプログラムを予定しています。今から準備をよろしくお願ひします。愛媛県臨床細胞学会は若い方々の活躍を期待します。本会の益々の発展のため、引き続き会員皆様のご協力をお願い申し上げます。

会員の皆様との連絡のため、今後もメーリングリスト、ホームページを活用したいと思っています。

HP URL <http://cyehime.webnode.jp/>

(令和 5 年 4 月 1 日)

第 31 回愛媛県臨床細胞学会学術集会

日時 令和 5 年 1 月 28 日(土) 15:30～

会場 四国がんセンター研修室

－ プログラム－

I 開会の辞 (15:30～ 15:35)

II 特別講演 (15:35～ 16:35)

座長 四国がんセンター病理科 寺本典弘

腫瘍の多様性ーなぜ腫瘍はヒツコイのか

大阪大学医学部病理学講座 病態病理学
教授 森井英一

III シンポジウム (16:45～17:45)

座長：市立宇和島病院病理診断科 菅恭弘、山内直樹

失敗例（苦慮例）から学ぶ細胞診ー細胞と組織の対比

1) 当院における乳腺細胞診での鑑別困難症例の検討

住友別子病院 病理診断科¹⁾、臨床検査部²⁾

眞鍋章子¹⁾、河口本子¹⁾、菅涼太郎¹⁾、小野和恵¹⁾、首藤久実¹⁾、井上耕
佑¹⁾、岡田正則²⁾

2) 細胞診断と組織診断が不一致であった甲状腺髄様癌症例

愛媛県立中央病院検査部¹⁾、同病理診断部²⁾

和田裕貴¹, 尾崎萌¹, 玉井佑弥¹, 越智景子¹, 亀岡美咲¹, 加藤真紀子¹, 森理恵¹, 井上信行¹, 木下幸正¹, 兵頭直樹¹, 木藤克己², 杉田敦郎², 前田智治²

3) 私の失敗した症例～リンパ球系細胞か否か～

市立宇和島病院病理診断科¹⁾ 同臨床検査科²⁾
山内直樹¹⁾, 菅恭弘²⁾, 吉本拓人¹⁾, 薬師神由子¹⁾, 薬師寺孝徳¹⁾, 中川健司¹⁾, 松影昭一^{1) 2)},
中西護²⁾

IV 特別報告 (17:45 ~ 17:55)

子宮頸癌の組織型別罹患と死亡

四国がんセンターがん予防・疫学研究部

寺本典弘

V 令和3年愛媛県臨床細胞学会総会 (17:55 ~ 18:10)

VI 開会の辞 (18:10)

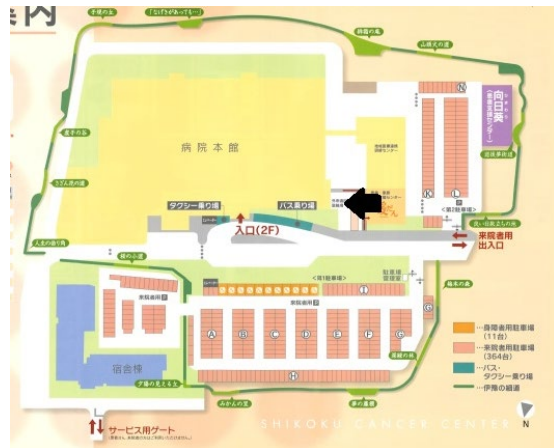
参加者へのご案内

会場

開場 15:00

アクセス

四国がんセンター 本館三階 中央エレベーターで3階へ上がってください



当日は土曜日なので黒矢印の時間外出入口をご利用してください

発熱者その他の体調の悪い方、濃厚接触者・COVID19 陽性者・エボラウィルス感染者・どうしても行きたくない方は参加をご遠慮ください。

会場は飲食禁止です。

無料駐車券をお渡しします。必要な方は受付時に申し出て下さい

会費

愛媛県臨床細胞学会費
中国四国連合会会費
愛媛県細胞検査士会費

1000 円
1000 円
今年度は徴収なし

まだ払っていない方は以下の口座に、会員の名義で振り込んでください。

その後、タイトルを”愛媛県臨床細胞学会会費・振り込み”とし、(cytology@shikoku.cc 愛媛県臨床細胞学会事務局) までメールする。 数人分を同時に振り込むときにはメールに全員の名前を記載してください

振り込み口座

愛媛銀行 県立中央病院出張所 店番 60
普通口座 3235002
名義 愛媛県臨床細胞学会 (エヒメケンリンシ
ョウサイボウガッカイ)

獲得ポイント

| | |
|--------|----|
| JSC 単位 | 10 |
| IAC 単位 | 3 |

— 抄録 —

特別講演

腫瘍の多様性 —なぜ腫瘍はヒツコイのか

森井英一

大阪大学大学院医学系研究科 病態病理学・病理診断科

腫瘍は一旦消えたと思っても再度増殖したり、離れたところにいきなり現れたりして、とにかく（大阪弁的な表現をすれば）「ヒツコイ」。ヒツコク攻撃を仕掛けてくる相手の場合、有象無象はほっておいて、一番のアタマを抑えてやっつけてしまえば攻撃は終わるものだが、顕微鏡でも、腫瘍細胞は基本的によく似た顔つきをしていて、どれがヒツコイ元凶になっているアタマなのかさっぱりわからない。HE 染色やパパニコロア染色やギムザ染色で丹念にみても、形は多少横に長くなったり、丸くなったり、さまざまな顔つきはしているが、決定的にどいつが悪さをしている細胞なのか、わからない。

ヒツコイと言え、我々の皮膚もヒツコク怪我につきあってくれる（皮膚の場合はヒツコクつきあってもらわないと我々が困るのだが）。外傷により皮膚の一部が剥離しても、きっちりと元に戻ってくれる。加齢とともに傷の治りは悪くなくても、ある程度の擦り傷切り傷なら修復される。これはひとえに表皮の最深部に存在する表皮幹細胞のおかげである。皮膚の表皮は形を変えながら表層へ向けて分化してはいるが、基底側の一部に未熟な幹細胞がおり、表皮の一部がなくなっても、ヒツコク表皮を再生してくれている。さて、話は腫瘍に戻る。腫瘍がヒツコイのは、皮膚と同じように、幹細胞的な役割を果たす未熟な細胞がいるためかもしれない。本講演では、腫瘍における未熟な成分に注目して、腫瘍の多様性が生存戦略にどのように生かされているのか、腫瘍はなぜヒツコイのかについて実例を示しながら考えてみたい。

特別報告

子宮頸癌の組織型別罹患と死亡

寺本典弘

四国がんセンター がん予防・疫学研究部

がん登録推進法に基づく『全国がん登録』の研究利用に対する情報提供が始まっている。

今回、それを利用して HPV 関連頸部腺癌・HPV 非関連頸部腺癌の上皮内癌を含む罹患数、上皮内癌を含まない罹患数、現病死症例の罹患数について、四国がんセンター院内がん登録データ、愛媛県がん登録データ（全国がん登録の愛媛県分）、全国がん登録データ（日本全体）の3種類のデータを使って算出した。

前例のないデータなのでここで報告する。

シンポジウム

失敗例(苦慮した症例)から学ぶ細胞診—細胞と組織の対比

座長：市立宇和島病院

臨床検査科 菅 恭弘，病理診断科 山内直樹

シンポジウムの趣旨について

説明するまでもないことですが、細胞診では標本の背景所見、細胞の細胞質や核所見などを拾い上げ疾患を推定します。近年ではセルブロック法が保険収載され免疫染色による細胞診検体の検索が容易となっていますが、形態観察が基本であることは変わりありません。そして形態観察が基本である以上、主観や思い込み、アーチファクト、類似所見など様々な要因によって判定を誤る場合があります。皆様にそのような経験があるのではないのでしょうか？

今回、そのような貴重な経験を提示・共有し形態検査への知識を深めていただき、皆様の一層のレベルアップに繋げることができれば幸いです。

1) 当院における乳腺細胞診での鑑別困難症例の検討

住友別子病院 病理診断科¹⁾、臨床検査部²⁾

眞鍋章子¹⁾、河口本子¹⁾、菅涼太郎¹⁾、小野和恵¹⁾、首藤久実¹⁾、井上耕佑¹⁾、岡田正則²⁾

近年、乳癌検診の普及や検査精度の向上により、乳癌はより早期の段階で発見され、悪性を強く疑う患者に対しては、針生検（CNB）が行われる場合が多い。また、良性病変を疑う症例や、出血傾向を伴う患者などに対しては、より低侵襲の細胞診検査が行われており、検体として腫瘍穿刺吸引材料や乳頭分泌物材料などが用いられている。このように乳腺領域の細胞診検査は、臨床の場において有用な手法であるが、組織型の推定や、良・悪性の鑑別診断を行うことを目的とするなどの様々な理由で、診断に苦慮する場合も多い。さらに、良性病変の中には、乳頭状構造や管状構造主体を呈する症例があり、細胞診判定が「鑑別困難」になることも少なくない。

今回、我々は乳腺細胞診判定の精度向上を目的に、当院においてこれまでに判定に苦慮し、「鑑別困難」とした症例について報告する。

2) 細胞診断と組織診断が不一致であった甲状腺髄様癌症例

愛媛県立中央病院検査部¹, 同病理診断部²

和田裕貴¹, 尾崎萌¹, 玉井佑弥¹, 越智景子¹, 亀岡美咲¹, 加藤真紀子¹, 森理恵¹, 井上信行¹,
木下幸正¹, 兵頭直樹¹, 木藤克己², 杉田敦郎², 前田智治²

【はじめに】 細胞診ガイドラインによると, 甲状腺髄様癌は甲状腺悪性腫瘍の1~2%とされ, 腫瘍マーカーとして Calcitonin や CEA が用いられる. またアミロイド物質が約半数の症例に見られ, 腫瘍細胞の結合性は弱く, 小型で類円形や紡錘形など様々な形態を呈し, 核クロマチンは粗大顆粒状であると記載されている. 今回, 当院で経験した細胞診断と組織診断が不一致であった甲状腺髄様癌症例について報告する.

【症例 1】 70 歳代男性. 胸腺腫の既往があり, 当時から甲状腺左葉に結節が見られた. 術後フォロー中に結節の増大が見られたため, 17 mm のやや低エコー腫瘤に対し穿刺吸引細胞診が施行された.

細胞採取量は少数であったが, 紡錘形の核を有する細胞が見られ, 既往歴と併せて胸腺腫の転移を疑った.

【症例 2】 80 歳代女性. 甲状腺左葉に 80 mm 程度の腫瘤と両側頸部に LN 腫大を認め PET-CT で悪性リンパ腫または甲状腺癌が疑われ穿刺吸引細胞診が施行された.

核腫大やクロマチン増量を示す異型細胞が孤立散在性から集塊状に見られた. また核内細胞質封入体や ICL が散見され, 甲状腺乳頭癌や低分化癌を疑った.

【まとめ】 2 症例とも, 細胞診断では髄様癌とは異なる診断結果となった. その主な原因として, 既往歴や乳頭癌に特徴的な核内細胞質封入体が見られたことがあげられる. しかし, 標本を見直すと, 極少数のアミロイドと思われる物質や紡錘形や裸核様の核を有し, 粗大顆粒状のクロマチンパターンなど髄様癌と推定できる所見が確認できた. 以上より髄様癌の細胞学的特徴を念頭に置き, 発生頻度は低いが髄様癌の可能性も考慮しながらの甲状腺細胞診が重要である.

3) 私の失敗した症例～リンパ球系細胞か否か～

市立宇和島病院病理診断科¹⁾ 同臨床検査科²⁾

山内直樹¹⁾, 菅恭弘²⁾, 吉本拓人¹⁾, 薬師神由子¹⁾, 薬師寺孝徳¹⁾, 中川健司¹⁾, 松影昭一^{1) 2)},
中西護²⁾

【はじめに】

体腔液細胞診において、悪性リンパ腫などのリンパ球系腫瘍では異型細胞が結合性なく出現する。一方で低分化癌においても低結合性の異型細胞が出現する。今回、胸水中に結合性のみられない異型細胞が出現し低分化癌細胞を悪性リンパ腫細胞と誤認した症例を提示する。

【症例】

70歳代女性。肥大型心筋症、狭心症などで加療中。突然の呼吸困難感から近医を受診し右胸水貯留を指摘され、当院紹介となった。咳嗽、排痰なし。

【胸水細胞像】

結合性のみられない大型の類円形細胞が多数出現していた。N/C比が高く、立体的核形不整が顕著であった。また核分裂像が多数確認できた。PAS染色、アルシアン青染色で粘液はみられなかった。判定は陽性、推定組織型を悪性リンパ腫として報告した。

【セルブロック組織像】

胸水細胞診と同様の異型細胞が多数確認された。免疫染色ではAE1/AE3(+), CK5/6(-), CK7(+), CK20(-), CD3(-), CD20(-), calretinin(-), claudin4(+), TTF-1(-), GCDFP15(-), CDX-2(-), ER(partly), PgR(-), MUC1(+), MUC2(-), MUC5AC(-)の結果であり、原発不明腺癌として報告した。

【考察】

弱拡大で結合性のない類円形細胞が標本一面に出現していたことから悪性リンパ腫の第一印象を持った。強拡大では高度の核形不整からATL細胞様と判断し、また粘液を確認できなかったことから、よりその疑いを深めた。

改めて振り返ると悪性リンパ腫とするには細胞質が豊富であり、breb様の細胞質突起を有する細胞が混在していた。またGiemsa染色において細胞質に重厚感があったと考える。

詳細な細胞質所見の観察が両者の鑑別には重要である。

奨励会受賞

新制度・令和3年度愛媛県臨床細胞学会学術奨励賞受賞者

| | |
|-------|-----------------------|
| 近藤 拓弥 | 愛媛大学医学部附属病院・検査部 |
| 玉井佑弥 | 愛媛県立中央病院 検査部 |
| 兵頭直樹 | 愛媛県立中央病院 検査部 |
| 細川翔 | 愛媛県立医療技術大学保健科学部臨床検査学科 |

50音順

活動報告

細川翔

令和4年度は筆頭で以下2演題の発表を行った。

- ・第63回日本臨床細胞学会総会（春期大会）一般演題（公募）：口演「子宮内膜細胞診におけるCD10陽性細胞分布評価の有用性」
- ・第61回日本臨床細胞学会秋期大会 一般演題（公募）：示説「子宮内膜間質評価を目的としたアルシアンブルー染色の有用性」（優秀演題賞受賞）

次年度は研究内容を論文にまとめるとともに、継続的な学会発表を目指す。また、奨励賞勉強会等で交流を深め、県内での活動も積極的に行いたい。

兵頭直樹

論文タイトル「新しいセルブロック作製法（パラフィン・寒天サンドイッチ法）の考案と比較検討（第二報）」を社団法人日本臨床衛生検査技師会が発行する会誌「医学検査」に投稿し、2023/3/1付けで採用となりました。現在のところ掲載号は未定ですが、論文掲載後に検査学会や細胞学会にて論文内容の発表を予定しています。

玉井佑弥

現在、「未染色コントロール切片の保存と免疫組織化学染色の検討（仮）」という内容で研究を進めています。また、今後も細胞検査士の資格を得るために知識向上に努めます。

近藤拓弥

令和4年度は筆頭で以下の演題発表を行った。「第61回日本臨床細胞学会秋期大会 一般演題(示説): 多形腺腫と腺様嚢胞癌との鑑別に苦慮した1例」

今後は継続的な学会活動を行いながら、全自動化 FISH(Omnis SureFISH)の有用性を検討する。

2021・2022年度細胞診検査士合格者

| | |
|-------|----------------|
| 菅 涼太郎 | 住友別子病院 病理診断科 |
| 若藤 諒 | 松山赤十字病院 病理検査部 |
| 岡崎 恭介 | 松山市民病院 病理検査室 |
| 下元 隆史 | 四国がんセンター 臨床検査科 |

令和4年度活動記録

令和4年度松山細胞診 (webweb)

第1回 2022年6月23日 (木)

第2回 2022年12月13日 (火)

第31回愛媛県臨床細胞学会学術集会

2023年1月28日(土)

子宮の日関連

令和3年度

松山市の依頼を受け松山市河原医療専門学校大学で令和3年6月2日、40名を対象に講演と資料配布200。

講師 深田千尋 令和3年6月2日

松山市教育委員会の依頼を受け普及啓発として松山市立垣生中学の120名を対象に講演と資料配布。リーフレット サンプル 100 配布

講師 相本菜月 令和3年12月18日

愛媛県総合保健協会の2Fを住民健診の会場として提供した際に資料とサンプルを配布

1月18日 (150部)

1月25日 (100部)

2月8日 (100部)

3月4日 (150部)

令和4年度

松山大学にて配布

リーフレット サンプル 各1,000部

令和 4 年度愛媛県臨床細胞学会役員会

1 日時 令和 5 年 1 月 25 日 18 : 00 web

日時 令和 5 年 1 月 28 日 15 : 00 四国がんセンターカンファレンス室

出席者 寺本典弘、和泉元雅子、大城由美、北澤理子、岡田正則、木藤克己、佐伯勇輔、佐伯健二、竹原和宏、飛田陽、松影昭一、松元隆、山本珠美

進行：寺本

議題

1. 第 3 1 回学術集会の研修単位 CT(JSC)10 点, CT(IAC)3 点 ・有料参加者 82 名
2. 1 月 28 日時点の会員数 113 名 (名誉会員 2 名、功労会員 4 名)
 - ・ 中国四国連合会の会費が会員 x 1000 円なので、会費納入や活動のない会員に関しては除籍することを検討する。
3. 会計報告 (令和 3 年度)
 - ・ 別紙のごとく会計監査され了承された
4. 第 3 1 回学術集会時の徴収会費、愛媛県臨床細胞学会会費 1000 円、中四連合会 1000 円、今年は年会費・連合会費のみ徴収としました。技師会費の徴収はなし。
5. 2022 年 (2022 年度) の支部総会・学術講演会, 特別講演について
 - ・ 1 月 28 日現地開催されました。プログラムは会誌・プログラムの通り
6. 2023 年 (2023 年度) の支部総会・学術講演会, 特別講演について
 - ・ 次回は夏、四国がんセンターで現地開催予定。
 - ・ 1 一般演題、2 スライドカンファレンス、3 特別講演で構成。
 - ・ 講師は検査士希望 (泌尿器、細胞像の写真の多い講演をする人を選定する)
 - ・ 一般演題は、症例報告については細胞診画像込みで抄録を作成する。
 - ・ 候補日: 7 月の土曜日、7 月 1 日、8 日、22 日、
 - ・ スライドカンファレンス症例は一般演題から選択する
7. 中国四国連合会は 25 年に愛媛県で開催予定。23 年は広島。
 - ・ 中四連合会の必要性について議論があった。
 - ・ 愛媛県大会では、教育講演/特別講演のみ 16 題程度を想定。
 - ・ 外部講師 1~2 名⇒1~2 演題、中四各支部から一人以上教育講演を出してもらおう⇒8 演題、会長講演 1, 愛媛県から 6。
1. 講師は教育講演・特別講演を全国大会であまりしてない人。
2. 奨励賞受賞者込みで 23 年度選定を始める
8. 愛媛県臨床細胞学会奨励賞について。
 - ・ 活動を今号の会誌に短くまとめたものをアップする。
9. 役員会メンバー: 22-23 年度の役員なので変更なし

10. 会誌はデジタル化された。
学会時の抄録の載ったバージョンを 1.0 とし、年度終了時に最終版を上げる。2023 年 4 月目処

令和 4 年度愛媛県臨床細胞学会総会

日時 令和 5 年 1 月 28 日 17:55～

会場 四国がんセンター研修室 参加者数 82 名

議題

1. 第 31 回学術集会の研修単位 CT(JSC)10 点, CT(IAC)3 点 ・有料参加者 82 名
2. 1 月 28 日時点の会員数 113 名 (名誉会員 2 名、功労会員 4 名)
 - 中国四国連合会の会費が会員 x 1000 円なので、会費納入や活動のない会員に関しては除籍することを検討する。
3. 会計報告 (令和 3 年度)
 - 別紙のごとく会計監査され了承された
4. 第 31 回学術集会時の徴収会費、愛媛県臨床細胞学会会費 1000 円、中四連合会 1000 円、今年は年会費・連合会費のみ徴収としました。技師会費の徴収はなし。
5. 2023 年 (2023 年度) の支部総会・学術講演会、特別講演について
 - 次回は夏、四国がんセンターで現地開催予定。
 - 1 一般演題、2 スライドカンファレンス、3 特別講演で構成。
 - 講師は検査士希望 (泌尿器、細胞像の写真の多い講演をする人を選定する)
 - 一般演題は、症例報告については細胞診画像込みで抄録を作成する。サンプルは追って提示する。
 - 候補日: 7 月の土曜日、7 月 1 日、8 日、22 日、
 - スライドカンファレンス症例は一般演題から選択する
6. 中国四国連合会は 25 年に愛媛県で開催予定。23 年は広島。
 - 中四連合会の必要性について中四連合会の代表者会議で議論があった。全国大会の縮小版では意味がないという意見が出た。
 - 愛媛県大会では、教育講演/特別講演のみ 16 題程度を想定。
外部講師 1~2 名⇒1~2 演題、中四各支部から一人以上教育講演を出してもらおう⇒8 演題、会長講演 1, 愛媛県から 6。
 - 講師は教育講演・特別講演を全国大会であまりしてない人。
 - 奨励賞受賞者込みで 23 年度選定を始める
7. 愛媛県臨床細胞学会奨励賞について。
 - 活動を今号の会誌に短くまとめたものをアップする。
8. 役員会メンバー: 22-23 年度の役員なので変更なし
9. 会誌はデジタル化された。
 - 学会時の抄録の載ったバージョンを 1.0 とし、年度終了時に最終版を上げる。2023 年 4 月目処

10. 1月の学術集会は寒いので3月にしたい。
11. 補記（総会で言わなかったこと-寺本）：以前7月終わりに愛媛県臨床細胞学会を開いていたが、夏休み・中国四国連合会・婦人科腫瘍学会とかぶるという理由で冬にした。今回年二回にするにあたって、1月7月の開催とすると、せっかくよけた7月とかぶってしまう。まだ、議論がない状態なので決められないが、今後3月9月開催に関して意見を集める予定。また、夏の大会の時にも会場費を集めるかどうかとも要検討。

令和4年度会計報告 (R3.4.1~R4.3.31)

令和3年度会計報告 (R3.4.1~R4.3.31)

1.収入の部

| | |
|-----------------------|--------|
| 前年度繰越金 | 685777 |
| 細胞診センター運営指導費(医師会から) | 200000 |
| 利子(R3.9.12 R4.3.13) | 8 |
| 令和3年度会費 ¹⁾ | 89000 |
| 令和3年度細胞検査士会費 | 0 |
| 運営用一時出費の残金 | 4000 |
| 小計 | 293008 |
| 合計 | 978785 |

2.支出の部

| | |
|-----------------------------|--------|
| 日本臨床細胞学会中国四国連合会 | 0 |
| 第30回愛媛県臨床細胞学会 | |
| 講師謝礼(南先生・東茨城) ²⁾ | 126000 |
| 運営用一時出金 ³⁾ | 4000 |
| 奨励賞(4名)5万x4 | 200000 |
| 愛媛県細胞検査士会振込 | 0 |
| 愛媛県臨床細胞学会会報 なし | 0 |
| 小計 | 330000 |
| 次年度繰越金 | 648785 |
| 合計 | 978785 |

単位:円

- 1) 令和3年度細胞検査士会費・日本臨床細胞学会中国四国連合会会費徴収なし。
- 2) 講師謝礼(南先生・東茨城)(旅費・旅費キャンセル料込み)
- 3) 運営用一時出金は講師料おつり対応のため

会計監査 2023年1月28日

R5年1月28日

木藤克己 

愛媛県臨床細胞学会会則

第1章 名称と事務局

第1条 本会は愛媛県臨床細胞学会と称する。

第2条 本会の事務局は愛媛県立中央病院病理診断部内におく。

第2章 目的と事業

第3条 本会は愛媛県における臨床細胞学の発展と普及を図ることを目的とする。

第4条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 学術集会の開催.
2. その他本会の目的達成のため必要事業.

第3章 会員

第5条 日本臨床細胞学会会員で愛媛県内に就職または在住するものを会員とする。ただし、本会員以外の日本臨床細胞学会会員および非会員でも、本会の学術集会のみに出席するものを当日会員とする。

第6条 会員は本会が開催する総会または集会に出席して発言して、業績を発表することができる。

第7条 本会の趣旨に賛同し本会を賛助する目的で特別会費を納入する個人または法人を賛助会員とする。満70歳を越えた会員は、名誉会員または功労会員として中国四国連合会に推薦する

第4章 役員

第8条 本会に下記の役員をおく。

会長 1名 幹事 若干名

第9条 会長は愛媛県内に就職する日本臨床細胞学会理事、評議員および指導医のうちより選出する。

第10条 会長は東予中予南予の地域性を注視し、細胞診専門医・細胞検査士からそれぞれ若干名の幹事を選出し、総会での承認を受ける。

第11条 会長は随時役員会を召集することができる。

第12条 会長は本会の活動状況について日本臨床細胞学会会長に年1回文書で報告しなければならない。

第13条 役員任期は3年とする。ただし再任は妨げない。

第5章 会議と集会

第14条 本会は年1回、本会総会を開催する。

第15条 学術集会は愛媛県臨床細胞学会学術集会と呼称し、年1回以上開催する。学術集会の集会長ならびに開催場所は幹事会において協議決定する。

第6章 会計

第16条 本会の経費は、会費および寄付金をもって当てる。

第17条 会費の額および納入方法は、幹事会にはかかって会長が定める。名誉会員、功労会員は会費の納入を免除する

第18条 本会の会計は担当幹事が管理する。

第19条 本会の会計年度は毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日に終わる。

第7章 会則の変更

第20条 会則の変更は幹事会で討論し、総会の承認を得て行う。

付則 本会則は昭和 60 年 5 月 31 日から実施する。
本会則は平成 28 年 1 月 31 日に変更した。
本会則は平成 31 年 1 月 31 日に変更した
本会則は令和 4 年 3 月 21 日に変更した

役員会名簿（2022～23年度）

| | | | |
|----|--------|-------------------|----|
| 会長 | 寺本 典弘 | 四国がんセンター 病理科 | |
| 幹事 | 和泉元 雅子 | 松山市民病院 | |
| | 大城 由美 | 松山赤十字病院 病理診断科 | ★ |
| | 岡田 正則 | 住友別子病院 病理診断科 | |
| | 北澤 理子 | 愛媛大学医学部附属病院 病理診断科 | |
| | 木藤 克己 | 愛媛県立中央病院 病理 | |
| | 佐伯 勇輔 | 西条中央病院 中央検査部 | ★★ |
| | 佐伯 健二 | 愛媛県総合保健協会 | |
| | 竹原 和宏 | 四国がんセンター 婦人科 | |
| | 則松 良明 | 愛媛県立医療技術大学 | |
| | 飛田 陽 | 松山市民病院 | |
| | 松影 昭一 | 市立宇和島病院 病理診断科 | |
| | 松元 隆 | 愛媛大学医学部 産婦人科 | |
| | 山本 珠美 | 四国がんセンター 臨床検査科 | |

以上 14 名（50 音順） ★：会計幹事、★★：愛媛県細胞検査士会 代表

愛媛県臨床細胞学会会員名簿 (20230331 まで)

| 名誉会員 | | |
|-------|---|---|
| 氏名 | 所 | 属 |
| 森脇 昭介 | | |
| 野河 孝充 | | |

| 功労会員 | | |
|-------|----------|-------|
| 氏名 | 所 | 属 |
| 渡辺 克一 | いよ産婦人科医院 | |
| 植田 規史 | 済生会西条病院 | 病理診断科 |
| 大西 博三 | 愛媛労災病院 | 病理 |
| 日野 典文 | | |

| 細胞診指導医 | | |
|--------|-------------|-------|
| 氏名 | 所 | 属 |
| 竹原 和宏 | 四国がんセンター | 婦人科 |
| 大亀 真一 | 四国がんセンター | 婦人科 |
| 横山 貴紀 | 四国がんセンター | 婦人科 |
| 寺本 典弘 | 四国がんセンター | 病理科 |
| 高畑 浩之 | 四国がんセンター | 病理科 |
| 北澤 荘平 | 愛媛大学医学部 | 分子病理 |
| 北澤 理子 | 愛媛大学医学部附属病院 | 病理診断科 |
| 増本 純也 | 愛媛大学医学部 | 解析病理 |
| 倉田 美恵 | 愛媛大学医学部 | 解析病理 |
| 松元 隆 | 愛媛大学医学部 | 産婦人科 |
| 宇佐美知香 | 愛媛大学医学部 | 産婦人科 |
| 山上啓太郎 | 新居浜協立病院 | |
| 松影 昭一 | 市立宇和島病院 | 病理診断科 |
| 飛田 陽 | 松山市民病院 | 病理 |
| 大城 由美 | 松山赤十字病院 | 病理診断科 |
| 水野 洋輔 | 松山赤十字病院 | 病理診断科 |
| 杉田 敦郎 | 愛媛県立中央病院 | 病理 |
| 木藤 克己 | 愛媛県立中央病院 | 病理 |
| 前田 智治 | 愛媛県立中央病院 | 病理 |
| 久野 美子 | 久野内科 | |

医師

| 氏名 | 所 | 属 |
|--------|-------------|-------|
| 中西 護 | 市立宇和島病院 | 病理診断科 |
| 谷脇 真潮 | 愛媛大学医学部附属病院 | 病理診断科 |
| 森川 紳之祐 | 愛媛大学医学部 | 解析病理 |
| 日比野 佑美 | 四国がんセンター | 婦人科 |
| 檜原 直起 | 松山赤十字病院 | 病理診断科 |
| 阿部千恵 | 四国がんセンター | 病理科 |
| 大野 輝之 | 愛媛大学医学部附属病院 | 病理診断科 |

| 細胞検査士 | | |
|--------|----------------|-------|
| 氏名 | 所 | 属 |
| 原 正樹 | JCHO 宇和島病院 | |
| 馬木 和則 | 今治市医師会診療所 | |
| 藤田 泰吏 | 愛媛県総合保健協会 | 病理 |
| 上田 翔子 | 愛媛県総合保健協会 | 病理 |
| 浅海 朋恵 | 愛媛県総合保健協会 | 病理 |
| 風谷 早紀 | 愛媛県総合保健協会 | 病理 |
| 太田 さやか | 愛媛県総合保健協会 | 病理 |
| 則松 良明 | 愛媛県立医療技術大学 | |
| 細川 翔 | 愛媛県立医療技術大学 | |
| 加藤 真紀子 | 愛媛県立中央病院 | 検査部 |
| 木下 幸正 | 愛媛県立中央病院 | 検査部 |
| 尾崎 萌 | 愛媛県立中央病院 | 検査部 |
| 越智 景子 | 愛媛県立中央病院 | 検査部 |
| 和田 裕貴 | 愛媛県立中央病院 | 検査部 |
| 高石 修 | 愛媛県立中央病院 | 検査部 |
| 兵頭 直樹 | 愛媛県立中央病院 | 検査部 |
| 亀岡 美咲 | 愛媛県立中央病院 | 検査部 |
| 井上 信行 | 愛媛県立中央病院 | 検査部 |
| 高石 裕子 | 愛媛県立中央病院 | 検査部 |
| 橋本真理子 | 愛媛大学医学部 | 分子病理 |
| 今井 美奈 | 愛媛大学医学部附属病院 | 病理診断科 |
| 片山 英司 | 愛媛大学医学部附属病院 | 病理診断科 |
| 近藤 拓弥 | 愛媛大学医学部附属病院 | 病理診断科 |
| 明賀 さつき | 愛媛大学医学部附属病院 | 病理診断科 |
| 田中 慎一 | 川崎医療福祉大学臨床検査学科 | |
| 佐伯 勇輔 | 西条中央病院 | 中央検査部 |

| | | | |
|--------|--------------------|--------|-------------------|
| 三好 里佳 | 済生会今治病院 検査科 | 佐伯 健二 | 愛媛県総合保健協会 病理 |
| 矢野 好人 | 済生会今治病院 検査科 | 高橋 若菜 | 愛媛県総合保健協会 病理 |
| 山本 珠美 | 四国がんセンター 臨床検査科 | 深田 千尋 | 愛媛県総合保健協会 病理 |
| 田母神佐智子 | 四国がんセンター 臨床検査科 | 水野 和江 | 愛媛県総合保健協会 病理 |
| 岡本 奈美 | 四国がんセンター 臨床検査科 | 山口 美紀 | 愛媛県総合保健協会 病理 |
| 楠 真奈美 | 四国がんセンター 臨床検査科 | 渡部 菜穂 | 公立学校共済四国中央病院 |
| 下元 隆史 | 四国がんセンター 臨床検査科 | 岡田 正則 | 住友別子病院 病理診断科 |
| 佐伯 由美 | 四国がんセンター 臨床検査科 | 河口 本子 | 住友別子病院 病理診断科 |
| 一色 順子 | 社会医療法人真泉会 松山まどんな病院 | 眞鍋 章子 | 住友別子病院 病理診断科 |
| 菅 恭弘 | 市立宇和島病院 病理診断科 | 佐々木 恵美 | 十全総合病院 |
| 山内 直樹 | 市立宇和島病院 病理診断科 | 岡崎 恭介 | 松山市民病院 病理検査室 |
| 此上 武典 | 市立八幡浜総合病院 | 岡崎 恭介 | 松山市民病院 病理検査室 |
| 堀内啓太郎 | 済生会西条病院 | 古本 好江 | |
| 佐伯 逸子 | つばきウイメンズクリニック | 清水美由紀 | |
| 安藤 早姫 | 愛媛医療センター | 水野 彩乃 | |
| 松家 由紀 | 松山市民病院 病理 | | |
| 和泉元 雅子 | 松山市民病院 病理 | 臨床検査技師 | |
| 湊 憲武 | 松山市民病院 病理 | 氏 名 | 所 属 |
| 窪田 裕美 | 松山赤十字病院 病理診断科部 | 相本 菜月 | 愛媛県総合保健協会 病理 |
| 坂本 真吾 | 松山赤十字病院 病理診断科部 | 相原 里江 | 愛媛県総合保健協会 病理 |
| 高石 治彦 | 松山赤十字病院 病理診断科部 | 玉井佑弥 | 愛媛県立中央病院 検査部 |
| 三好 陽子 | 松山赤十字病院 病理診断科部 | 吉田 拓海 | 愛媛大学医学部附属病院 病理診断科 |
| 高島 香菜子 | 松山赤十字病院 病理診断科部 | 薬師寺孝徳 | 市立宇和島病院 病理診断科 |
| 松本 優衣 | 松山赤十字病院 病理診断科部 | 山村 展央 | 市立八幡浜総合病院 |
| 榎 美奈 | 松山赤十字病院 病理診断科部 | 門屋 孝志 | 松山赤十字病院 病理診断科部 |
| 若藤 諒 | 松山赤十字病院 病理診断科部 | 池田 みか | 松山赤十字病院 病理診断科部 |
| 石田 茂己 | 愛媛メディカルラボラトリー八幡浜ラボ | 林 愛莉実 | 愛媛大学医学部附属病院 病理部 |
| 井上由紀江 | 愛媛労災病院 検査科 | 菅 涼太郎 | 住友別子病院 病理診断科 |
| 伊能 公代 | 愛媛県総合保健協会 病理 | | |
| 金子真由美 | 愛媛県総合保健協会 病理 | | |

編集後記 (version 2.0)

前回から紙での発刊をやめ pdf としました。デジタル化されていない情報に価値はありません。デジタル化すると、自由に追加して途中で発刊できるなどの良い点があります。何回かに分けて提供してきた第 30 号はこれにて完成です。

今回は 2 回目ですが、ほぼ全部自分で作成しました。大変でした。『だいたい中身はわかりましたので、今後は手分けしてデジタルの強みを生かしたものを作っていきたいと思います』と言うのは前号の文末ですが次号は如何に？次回夏の学会は抄録集のみの発刊になります。

(寺本典弘 記)

愛媛臨床細胞学会会報 第 30 号

令和 5 年 3 月 31 日 version 2.0

編集 愛媛県臨床細胞学会会長 寺本典弘

四国がんセンター病理科

TEL : 089-999-1111

E-mail : 寺本 (←ローマ字で) @shikoku.cc (←四国. CancerCenter)

愛媛県臨床細胞学会へのメールは

cytologyのあと@shikoku.cc です。

“のあと” は削除